

第2回つながろう CO・OP アクション交流会

～つどい・つむぎ・つなげる・未来～ 参加報告

古屋 康子

日時：2013年3月14日 会場：コラッセふくしま

「被災地の今の課題と、今後の支援活動を考える」全体会報告より

コープふくしま 専務理事 野中さん

放射能汚染問題の多様性（自宅に住めない苦悩、賠償金の格差など）を知って欲しい。仮設住宅の支援をお願いしたい。忘れない、忘れさせない仕組みづくり。支援を継続させるためには事業の中で負担にならないよう、事業と活動の総合的な取り組みが必要。

みやぎ生協 生活文化部長 小澤さん

生活再建の格差があり、産業復興が遅れている現状。子どもの居場所づくり、子どものケアをもっとしたい。また昼間のお茶会だけでなく、働いているお母さんたちのためのお茶会を開きたい。

いわて生協 常務理事・組合員活動・広報管掌 金子さん

住宅の再建、体調不安、雇用不安、子どもの未来など先の見えない不安だらけ。過疎地は復興が遅い。仮設に住む人だけが被災者ではない。被災地に住む人が被災者。仮設住宅を訪れるサロンも助成金がなくなって引き上げるNPOや団体もあるが生協は続けていく。お菓子などの協力をお願いしたい。手書きカードも仮設住宅以外の人にも届けたいがまだまだ足りない。移動販売車4台での買い物支援もありがたい。複数の生協で横のつながりを持って、被災地商品を買って支えて欲しい。とにかく、忘れないで欲しい。



遠く離れていてもできる支援があります。被災地の商品を買う。募金に協力する。当たり前のことですが、ひとりひとりが意識して行動すれば大きな力になると思います。手書きカードも、もっと多くの人に届けられたらと思います。私も今回の七夕カードは「楽しみにしている人」のために図書館で本を借り、切り絵を作成しました。分科会でご一緒したコープふくしまの理事さんは「子どもの健康」を一番に考えて欲しいと訴えていました。「子どもが毎日歩いて学校に行ける」当たり前と思われていることができない現実を、私も子どもを持つ親として日々忘れずに心に留めて生活していかなければと思いました。最後に、震災を忘れないのはもちろん「忘れないで欲しい」と言われた方の気持ちを忘れないようにしたいです。

